

# 研究の概要

< 研究構想図 >

**【学校教育目標】**

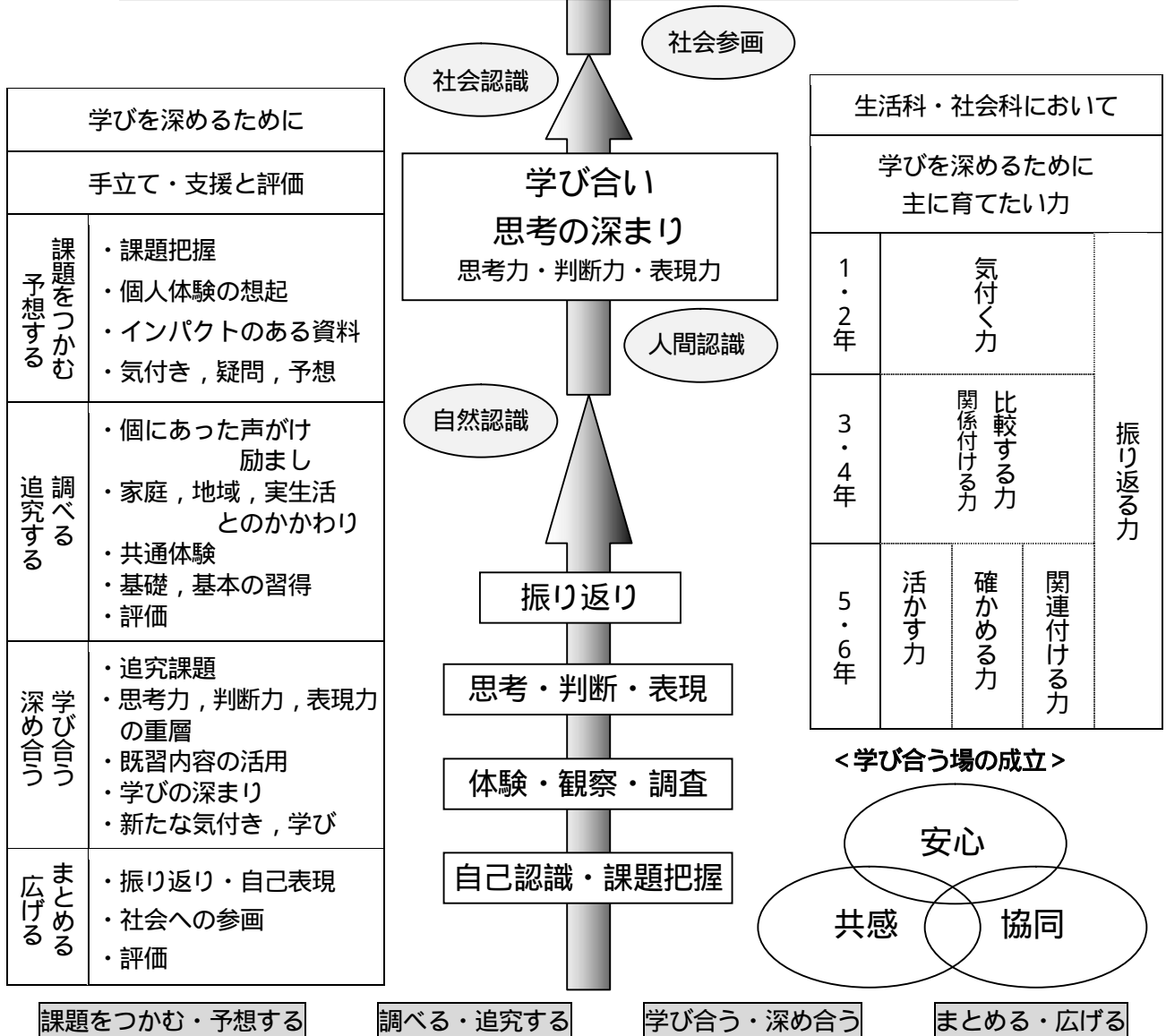
「知性と豊かな人間性・創造性に富み、意欲的で心身ともに健康な児童」の育成

## 自ら学ぶ子

**【本校のめざす子ども像】**

- ・いきいき学ぶ子
- ・やさしい子
- ・たくましい子

### 自ら考え，学びを深め合う授業づくり



各教科の基礎学力  
学び方の習得

体験活動・観察・調査  
情報選択・表現活動

実践的能力・かかわる力  
思考力・表現力・判断力

## 意欲

自ら学ぶ意欲・活動する意欲  
身近な事象にかかわる意欲・生きる意欲

## 共に学び合う力

認め合う人間関係づくり  
話し合いのルール・マナー

## 1 研究主題

「自ら学ぶ子の育成」  
- 自ら考え，学びを深め合う授業づくり -

## 2 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で飛躍的に重要性を増し、知識基盤社会化やグローバル化が加速している。このような変化の激しい世の中を生き抜いていくためには、どのような状況にも対応できる力、さらによりよい社会を創造し、問題解決できる資質や能力を備えた人間の育成が必要となってくる。そのためには、子ども一人一人がこの社会をたくましく生き抜いていけるように、身の回りの社会的事象に主体的にかかわり、自ら学んでいこうとする意欲や態度を意図的・計画的に育てていかなければならない。社会の問題解決に向けて、自ら考え、適切に判断し、行動できる子どもの育成を目指して研究主題を設定した。

## 3 これまでの研究

本校は、以前より生活科・社会科・情報教育を中心に研究を進めている。主題「自ら学ぶ子の育成」をめざし、平成11年度にサブテーマ「生活科・社会科を窓口とした問題解決能力の育成」で生活科・社会科の基本的な問題解決的な学習の一定の流れを作り上げてきた。

平成12年度から2年間は、サブテーマ「体験や他者とのかかわりを通して児童の自己実現を図る」を設定し、体験活動を充実させ他者とのかかわりを持たせることによって子どもたちの学びがより豊かになってきた。

平成14年度から5年間は「子どもたちが見通しを持って主体的に活動するために」をサブテーマに、子ども自らが学習課題をとらえるための支援工夫や課題設定後のゴールを見据えた学習活動を組織することで「自ら学ぶ子の育成」を目指して研究を続けてきた。

平成19年度からは、見通しを持って主体的に活動する子ども像を掲げ、生活科・社会科における「振り返る力」「比較する力」「予想する力・調べる力」を身に付けさせながら、問題解決的な学習の流れを大切に授業を展開してきた。その結果、生活科や社会科の授業の中で学習問題に対して予想を立てる、追究方法を考える、ゴールを見据えて活動するなど、見通しを持って活動する姿が見られるようになった。

この間9年余り、本校は問題解決的な学習を大切にしながら「自ら学ぶ子」を育成するために研究実践を積み重ねてきた。しかし、児童の実態や児童・教師用研究アンケート結果から、学びが浅いことや追究活動の中で新たな疑問や問題が持てないこと、自分の考えを十分に表現できないことなどの実態が明らかとなり、新たな課題が見つかった。

そこで、今日的な教育課題や子どもの実態をふまえ、子ども一人一人が主体的に問題意識を持ち、その解決に向けて豊かなかかわりを通して学び合う授業づくりに取り組むことで、より学びが深まり、自ら学ぶ力を育てることができるのではないかと考え、平成21年度よりサブテーマ「自ら考え、学びを深め合う授業づくり」を設定した。これまでの研究で培ってきた「振り返る力」「比較す

る力」「予想し、調べる力」も生かしながら、本研究テーマ「自ら学ぶ子の育成」を目指して実践してきた。

#### 4 研究主題について

##### 自ら学ぶ子の育成

##### ～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～

###### (1) 自ら学ぶ子の育成

本校では、「自ら学ぶ子」の子ども像を次のように考える。

「自ら学ぶ子」とは  
興味や関心を持ち、自分の問題意識がはっきりしている。  
問題解決について見通しを持つ。  
問題解決のために主体的に行動し、適切に判断する。  
自分の行動を振り返り、新たな問題を見つけ考える。  
「人・もの・こと」に進んでかかわろうとする。

このような力が育った子どもたちは、自分で考え、学び、行動することができる。また、学び方やものの見方、考え方を身に付け、問題の解決や追究活動に主体的、創造的に取り組むこともできる。そして、自分自身の活動を振り返ることにより自己を見つめ、ひいては自分自身の生き方についても考えることができるようになるのではないだろうか。「自ら学ぶ子」を育成するためには、子どもたち一人一人が自らの経験を生かし思考力、判断力などを働かせながら進んで社会的事象にかかわり、自ら問題を見つけ、主体的に思考し行動する態度を育成することが必要である。この子ども像に迫るために本校では、活動の意欲が持続し、子どもの興味や関心が高まる教材の開発、問題解決的な学習の流れの中に位置づけられた体験的・作業的活動を取り入れた学習活動の計画、また子どもが社会的事象や仲間、自己と豊かにかかわりながら主体的に学習を進めていける授業に取り組んできた。

###### (2) 学びを深め合う授業づくり

授業のよさは、他者と様々な考えを共有し、意見を伝え合いながら思考を深めることができることにある。一人では気付かない場合でも、他者の考えを聞くことによって新たな気づきが芽生えたり、「なるほど」「そんな考え方もあったのか」とその子なりの学びを深めたりすることができる。問題を解決する過程で生まれた自己の考えは、他者と豊かに交流することによってより学びが深まり、そしてさらに思考や判断、表現をしていく中で自己の変容に気づき再認識できる、集団での学びにはそんなよさがたくさんある。

本校では、子どもたちの実態分析や教職員の授業後の反省から、「自己表現力の弱さ」「思考の深まりの浅さ」などの本校の課題が明らかとなった。そこで、問題解決的な学習を大切にしながら、子ども自ら問題や課題を持ち、その解決に向けて仲間と学び合い、かかわり合いながら追究していく学習や授業をめざし、サブテーマ「自ら考え、学びを深め合う授業づくり」を設定した。「学びを深める」とはどのような状態であるのか、本校では次のように考えた。

「学びを深める」とは  
学習に対して理解を深めること  
授業を通して、様々な考えがあることに気付くこと  
自己の考えや思考が変容すること  
自己の考えを再認識すること  
新たな気付きや課題が生まれること

「学びを深め合う授業」とは、互いの考えや思いを伝え合うことを通して、個々の学びを深めることができる授業である。今回の学習指導要領の改訂では、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習、また思考力・判断力・表現力の育成について重点が置かれている。これらの力を付けるために、日々の学級経営では「聴き合う」「話し合う」学級づくりを大切にし、生活科や社会科の授業を通して子どもたち一人一人が考えを持ち、仲間と共に「学びを深め合う」授業づくりを実践してきた。

この学びを深めるために、欠かせない「かかわり」には以下の3つがあると考える。

#### ・社会的事象とのかかわり

子どもたちは、まず社会的事象との出会いから学習問題を見つけ、調べ、考え、判断していく。実際に自分の目で見ると、聞く、体験するなど、子ども自身が社会的事象と向き合い、自分との関係をとらえながら問題解決に向けて取り組むことで、事実認識や社会認識の獲得につながっていく。社会的事象が実生活に結びつくものや、自分との関係においてとらえやすいものであれば、子どもたちはより自ら主体的に学び、豊かにかかわることができる考える。

#### ・仲間とのかかわり

社会的事象のとらえ方は多様であり、特に社会科では社会的事象を多面的に考え判断することが求められる。仲間と考えを伝え合い、共通点や相違点を見つけ比較することによって、自己の変容に気付いたり新たな問題意識が生まれたりするといった学びの深まりが見られる。その学びに深まりがあった時に、思考力・判断力もより育成されるのではないだろうか。学びを深めるためには、仲間との豊かなかかわりが必要であると考える。

#### ・自己とのかかわり

言語活動を通して自らの思考や集団思考を高め、学びを深めるためには自己評価、相互評価が必要となる。子どもは、自己との対話をしながら学習を振り返ることによって自分の姿が分かる。授業の中で自分の学びを記録し、振り返ることによって新たな自己の変容に気付いていく。そしてそれは、次の学びへのつながりとなる。仲間とのかかわりの中で多様な価値観を学びながら自分を振り返り、考えを再構築することによって社会的なものの見方・考え方が成長していくと考える。

以上、学びを深め合う授業をこのようにとらえ、サブテーマ「自ら考え、学びを深め合う授業づくり」を本校では以下のように考えることとした。

**「自ら考え、学びを深め合う授業」**  
「学習問題の解決に向けて主体的に取り組み、社会的事象・仲間・自己と豊かにかかわり合いながら、学びを深めることができる授業」

## 5 大会主題とのかかわり

本校では、生活科・社会科教育を中心に、社会的事象・仲間・自己とのかかわりの中で社会認識を深め、自ら考え主体的に社会にかかわる子どもを目指して取り組んでいる。また、よりよい社会を目指していく人間の知恵や働きに着目しながら社会的事象を具体的にとらえ、その意味を共に考え学び合う授業を通して、他者や社会的事象に主体的にかかわり、問題解決に向けて行動する子どもの育成を目指している。これは、本大会の大会主題である「人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」の基本理念に基づくものである。

## 6 研究内容

研究主題「自ら学ぶ子の育成～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～」に迫るために次の3点を研究の視点とし、研究・実践を行ってきた。

### 研究の視点

#### 視点1 主体的な学びを作りだす教材の工夫

地域教材の開発  
「人・もの・こと」を通して学ぶ教材  
体験的、作業的な活動の充実

#### 視点2 自ら学ぶ力を育てる学習活動

単元構想図の作成  
問題解決的な学習過程の工夫  
n次指導案作成

#### 視点3 学びを深め、かかわりを生かす授業研究

思考力・判断力・表現力育成のための活動工夫  
かかわりを深めるための支援・評価  
・学びのリレーションシート活用 ・学びシート活用  
思考をつなぐノート・板書工夫

## 視点1 主体的な学びを作り出す教材の工夫

### (1) 地域教材の開発

本校では長年、子どもたちが自分のこととして社会的事象にかかわり、主体的に問題解決に向けて取り組み、社会に参画する基礎となる力を培う地域教材を開発してきた。地域における社会的事象との豊かなかかわりは、子どもの興味・関心を喚起し、学習意欲を高めることができる。体験的な学習(見学・調査・聞き取りなど)が可能になり、社会的事象の意味をとらえやすい。地域社会の中の自分に気付き、地域につながりや愛着を感じることができるなど、主体的な学びをつくり社会形成に参画する資質・能力の基礎を培う基となる。地域素材の教材化にあたっては、次のことに留意しながら教材開発を進めてきた。

### (2) 「人・もの・こと」を通して学ぶ教材

本校では、地域教材を含める社会科教材を大きく3つにとらえ、具体的な人の営みを通して社会認識を深める「人」に学ぶ教材、具体的な事物から社会的事象の意味や特色を考える「もの」に学ぶ教材、身近な社会的事象を広い視野で考える「こと」に学ぶ教材を通して、これまで実践を行ってきた。

### (3) 体験的、作業的な活動の充実

社会科の授業においては、子ども一人一人が主体的に学習に取り組み、自分なりの社会的なものの見方・考え方ができるようにすることが大切である。本校では、問題解決的な学習の中に体験的、作業的な活動を意図的に計画し、効果的に指導することによって知識や技能、社会的な見方や考え方を習得させ、主体的な学びにつながる教材工夫を実践している。体験的、作業的な活動は、子どもたちにとって次のような効果があると考えられる。

## 視点2 自ら学ぶ力を育てる学習活動

### 1 単元構想図の作成

本校では「自ら考え、学びを深め合う授業」を目指し、指導案作成の際には単元全体の骨格を表した単元構想図を作成している。まず、めざす子どもの姿を想定し、実態をふまえながら学習指導要領から子どもに考えさせたい内容や調べる方法を抜き出し、思考の連続性を大切に単元を構想する。学習内容と目標、予定時数、予想される子どもの反応などを記し、これを基に指導計画を作成している。

### 2 問題解決的な学習過程の工夫

本校では、単元構想図を基にして、問題解決的な学習の流れを大切に指導計画を立てている。「問題をつかむ」段階では、教材や社会的事象と出合うことによって生まれた子どもの気付きや問題意識を大切にしながら学習問題を作っている。学習のねらいをしっかりとらえ、子どもが自ら問題意識を持って主体的に判断し、解決できる追究活動を取り入れたい。授業者側の意図的支援(教材・手立て)と子どもの追究活動がうまく絡まる学習を目指している。

### 3 n次指導案作成

本校では、授業実践を重ねるごとに、指導計画に記されていた子どもの思考の流れ(発言)を、実際の授業の発言に修正しながら研究を深めている。授業の実際を、計画案に修正して作り上げるものがn次案である。単元の途中で子どもの思考の流れが計画にそわず、指導案修正が生

じた場合は、指導案を修正し修正部分を記述している。また、指導案とは別に、単元を通して特に注目したい子ども（かかわり生かす子）の思考を見取り、授業の様子や思考の流れを書き込んだものも作成し（学びのリレーションシート）研究に生かしている。

### 視点3 学びを深め、かかわりを生かす授業研究

#### 1 思考力・判断力・表現力育成のための活動工夫

社会科では、その社会的背景にある問題や課題を探り、社会的事象を多面的に考察するために様々な資料（写真、図・地図、グラフ、イラスト・絵、表、文章資料など）を読み解きながら学習を進める。思考力・判断力・表現力を育成するために、社会科における言語活動で身に付けさせたい力を、本校では以下のようにとらえた。

資料や観察・調査などから事実を正確にとらえる力  
情報を目的に応じて記録する力  
比較・関連付け・総合しながら社会的事象の意味について考え、考えを再構成する力  
根拠や解釈を示しながら考えや思いを伝え合い、共に学び合う力  
自分の考えを自分のことばでまとめる力

#### 2 かかわりを深めるための支援・評価

かかわりを生かし、学びを深め合う授業を行うためには、子ども一人一人の意識の流れを見取る必要がある。本校では、前時までの振り返りや自己評価などから、子どもの思考を座席表（学びシート）に記入し、見取り、把握しながら次の授業に生かす方法を取っている。このシートに、その時間に着目したい子どもや、子ども同士の横のつながりを示したものを作成し、校内の授業研究に役立てている。このシートを本校独自の呼称をつけ、「学びのリレーションシート」と呼んでいる。

#### 3 思考をつなぐノート・板書工夫

社会科における言語活動を充実させるため、自分のノート作りに挑戦している。授業の板書はデジタルカメラで写し、ノート保存することによって記録資料となる。授業の振り返りが可能な思考のつながるノート作りを目指している。板書は、1時間の授業が目標の実現に向かって進められていく過程において、子どもの思考や授業の流れが分かるような構造的な板書を研究している。発言者が分かるようにネームプレートを使用する（意見のつながりにおいて有効である）矢印や丸印で子どもの思考を整理する キーワードなどでまとめ、視点を持たせる 色チョークを有効的に活用する 資料を効果的に併用するなど、授業の流れがわかる板書づくりを目指している。

### ～ 第50回 全国小学校社会科研究協議会研究大会 高知大会のお知らせ～

開催期日：平成24年11月8日（木）・9日（金）

第1日 11月8日（木）13:30～16:50

開会行事、全体会、記念講演

理事会、レセプション

第2日 11月9日（金）9:00～16:20

昭和小公開授業

全体会（早稲田大 小林宏己先生 講演）

学年別授業研究会、学年別課題研究会

高知市立昭和小学校へのご来校、お待ちしております。